

編集後記

年報第二十一号を刊行することができました。

年報は、今回も多数の執筆者を得て、論文八点、研究ノート一点、そして書評二点からなり、多方面にわたる研究テーマを内包し、社研メンバーの研究関心の多様性を物語っています。多数の執筆者を得ていながら、本年度は、特に厳しい予算制約が与えられてしまい、執筆者の皆さんには、当初、枚数の上限を設定したりで、たいへん御迷惑をおかけすることになり申し訳なく思っています。次年度以降は、こうした問題で執筆者がわずらわされることのないように、社研の財務体質の強化を目指して関係方面に働きかけを行なわなければなりません。

現在、社研メンバーは、所員百十四名、所外研究員十一名、研究参与十二名とかなりの大所帯に拡大してきています。今回、新メンバーも四名参加されたことでもありますので、特集という形式にとられない場合の年報執筆には、できるだけ新規参入を歓迎し、今後ともパラエティーに富んだ年報とするために、さまざまな研究分野の方々を発掘するのも、編集担当の重要な仕事と決意をあらたにしています。

年報刊行がほぼ予定通り実現できたのは、執筆者の方々の御協力によるものであることはもちろんですが、わずらわし

い事務連絡などで研究所の竹内佐和子さんにはすっかりお世話になってしまいました。ここに厚くお礼申し上げます。また公人社の編集担当、大出明知さんにも何かと御尽力いただきまして感謝致します。

(一九八七年一月、編集担当・田口冬樹)